

古典A 竹取物語(冒頭)

なよたけのかぐや姫①

年 組 番 氏名

古文を現代語訳してみよう。古文は日本語だから、カンペキ単語帳を見ながら考えれば、自力でできる！

カンペキ単語帳	本文	現代語訳
<ul style="list-style-type: none"> 今は昔今ではもう昔のことだが、 「竹取の翁」←名前なので、訳をそのまゝ ありけりあった、いた をばを * 「は」↓訳はない いひけると言った まじるに分け入る 取りつつとつて好 よろずのこといろいろなこと けりした(過去) もと根元 ・ なむが 一筋(ひとすじ)一本 ありけりあった、いた あやしがる不審に思う 寄りて見るに寄ってみると 筒の中竹筒の中が ・ たりていた 見れば見ると 三寸ばかりなる三寸ばかりの * 一寸=3.3cm いととても ・ うつくしくつてかわいらしく みたりすわっていた 翁言うやう翁が言には わが私が ・ 朝ごと夕ごと毎朝、毎夕 おはするにていろいろあったので 知りぬわかった ・ 子わが子 なりたまふべきおなりになるべき なめり二に違いない。 とて二とて うち入れて入れて ・ 来ぬ来た 妻の姫妻である姫 養はず育てさせた 	<p>今は昔、竹取の翁といふ者ありけり。 名をば、さかきの造となむいひける。 野山にまじりて竹を取りつつ、 よろづのことに使ひけり。 その竹の中に、 もと光る竹なむ一筋ありける。 あやしがりて寄りて見るに、 筒の中光りたり。 それを見れば、三寸ばかりなる人、 いとうつくしくつてみたり。 翁言ふやう、 「わが朝ごと夕ごとに見る竹の中に おはするにて、知りぬ。 子になりたまふべき人なめり。」 とて、手にうち入れて、家へ持ちて来ぬ。 妻の姫(おうな)に預けて養はず。</p>	

古典A 竹取物語(冒頭) なよたけのかぐや姫②

年 組 番 氏名

古文を現代語訳してみよう。古文は日本語だから、カンペキ単語帳を見ながら考えれば、自力でできる！

カンペキ単語帳	本文	現代語訳
<ul style="list-style-type: none"> うつくし_二かわいらしい 限りなし_二このうえない をさなければ_二幼いので 取るに_二取るに 節を隔ててよ_二ことに_二節と節のあいだ_二ことに 黄金ある_二黄金が入っている 見つくる_二見つける 重なりぬ_二たび重なった かくて_二こうして なりゆ_二なつてゆく この児_二この子は 養うほどに_二育てるうちに 大きになりまさる_二大きくなつてゆく 三月ばかり_二三月月くらゐ なるほどに_二なるほどに よきほどなる人_二ちよつとよい大人 なりぬれば_二なつたので 髪上げなど_二髪あげの儀式を *髪上げ_二女性が髪を結びあげる成人の儀式 むつして_二準備して 髪上げさせ_二髪上げをさせ 裳着す_二裳を着せぬ 帳のしちみも_二仕たむは_二いづれの中か_二はやく いつき_二大切 けうらなる_二清ら(なり_二清らかでうつくしく 世にな_二この世にまたとなく 屋の内_二屋敷の中 	<p>うつくしきこと限りなし。</p> <p>いとをさなければ、籠に入れて養ふ。</p> <p>竹取の翁、竹を取るに、</p> <p>この子を見つけてのちに竹取るに、</p> <p>節を隔ててよ</p> <p>黄金ある竹を見つくること重なりぬ。</p> <p>かくて、翁やうやう豊かになりゆく。</p> <p>この児、養ふほどに、</p> <p>すくすくと大きになりまはる。</p> <p>三月ばかりになるほどに、</p> <p>よきほどなる人になりぬれば、</p> <p>髪上げなどむつして、</p> <p>髪上げさせ、裳着す。</p> <p>帳の内よりも出ださず、いつき養ふ。</p> <p>この児のかたち、</p> <p>けうらなること世になく、</p> <p>屋の内は暗き所なく光満ちたり。</p>	

カンパキ単語帳	本文	現代語訳をつくらう
<ul style="list-style-type: none"> ・心地あしく＝気分が悪く ・見れば＝見る ・やみぬ＝なくなつた *ぬ＝完了 ・慰みけり＝なぐさめられたそうだ。 ・久しく＝永く ・なりぬ＝なつた ・勢ひ猛の者＝勢力のある富豪 ・いと＝たいそう ・大きに＝大きく ・なりぬれば＝なつたので ・三壱戸齋部の秋田→人々ののでそのまま ・つけやす＝つけやす ・「なよ竹のかぐや姫」→そのまま *「なよ竹」は、「柔らかくしなやかな若竹」 ・つけつ＝つけた *つ＝完了 ・このほど＝この間 →「このほどは」「この名づけの儀式の間」 ・三日＝三日間 ・うちあげ＝宴会を開いて遊ぶ＝音楽、歌・踊りを楽しむ ・よろづの＝さまざま ・遊びをぞ＝音楽、歌・踊りを *「ぞ」は強調→訳さない ・しける＝したそうだ ・つけきらわす＝えり好みせず ・呼び集へて＝呼び集めて ・いと＝たいそう ・かしく＝盛大に ・世界の男＝世の中の男 ・貴なるも、いやくきも＝身分の高い者も低い者も ・いかで＝何と ・得てしかな＝妻にしたい ・見てしかな＝結婚したい ・音に聞く＝うわむに聞く ・めぐる(愛ぐる)＝恋焦がれる ・惑う＝心乱れる 	<p>翁心地あしく、苦しきときもせ、 この子を見れば、苦しきこともやみぬ。 腹立たしきことも慰みけり。 翁、竹を取ること久しくなりぬ。 勢ひ猛の者になりけり。 この子いと大きになりぬれば、 なよ、三壱戸齋部の秋田を呼びつけやす。 秋田、なよ竹のかぐや姫とつけつ。 このほど三日うちあげ遊ぶ。 よろづの遊びをぞしける。 男はつけきらはす呼び集へて、 いとかしく遊ぶ。 世界のをのこ、貴なるもいやくきも、 いかでこのかぐや姫を得てしかな、 見てしかなと、音に聞き、めでて惑ふ。</p>	